

プレスリリース

2012.05.23

西友 セカンドハーベスト・ジャパンのフードバンク活動への 本格支援を開始

自社物流網を活用した組織的支援体制を構築し、食品寄付を拡大

合同会社西友では、賞味期限および消費期限の管理を徹底するため、社内ルールに基づいて、それぞれの期限到来前に食品を店頭より撤去し、廃棄処分としています。食品廃棄物の発生抑制を図ると共に、これらの期限到来前の食品を出来る限り有効活用するため、日本初のフードバンクである、セカンドハーベスト・ジャパン（本部：東京都台東区＊）のフードバンク活動を支援することで、スーパーマーケットとしての本業に即した社会貢献活動を推進します。

西友の店舗より定期的に集荷された食品は、西友の物流センターへ移送され、そこでセカンドハーベスト・ジャパンへ引き渡されます。各寄付施設へは、セカンドハーベスト・ジャパンよりその日のうちに配送され、各寄付施設がそれぞれの期限内で各食品を利用します。

西友は、過去3年に渡り、セカンドハーベスト・ジャパンの協力のもと、関東近郊の数店舗においてパイロット・プログラムを実施してきました。各作業工程におけるノウハウが蓄積され、西友、セカンドハーベスト・ジャパン双方の関連各部門においての作業効率も高まってきたことを受けて、6月より同活動を37店舗に拡大し、本格的に始動することを決定しました。さらに、2016年までには、同活動を関東全域の150店舗余に拡大することを計画しています。

西友では、セカンドハーベスト・ジャパンのフードバンク活動への支援を更に拡充するため、本年7月から、関東地区の全店でフードバンク活動を支援する店頭募金も開始いたします。

西友の親会社であるウォルマート・ストアーズ・インク（以下、ウォルマート）では、2010年に「ファイティング・ハンガー・トゥギャザー」と銘打ったキャンペーンを立上げ、米国内のフードバンク団体等と連携した活動を積極展開しています。西友は、今後、こうしたウォルマートの活動ノウハウも活用し、食品寄付活動を自社の社会貢献活動の重要な柱の一つとして推進して行く方針です。

＊セカンドハーベスト・ジャパンとは

日本で初めてフードバンク活動を始めたNPO法人。フードバンク活動とは、賞味期限内であるにも関わらず、包装の不具合や賞味期限が迫っている、季節商品である、などの理由から、食品企業や量販店、輸入業者、卸業者、農家などが市場に流通できない食品を、食料を必要としている福祉施設や貧困者に配分する活動。日本で排出される食品廃棄物は年間約1,900万トンに及び、食べられるのに捨てられてしまう、いわゆる「食品ロス」が約900万トン(コメの年間生産量と同じくらい)発生している。提供者側にとっては廃棄コストを大幅に削減することができ、食糧問題と環境問題を解決する一助として注目されている。フードバンク活動は、1967年に米国アリゾナ州で始まった。

日本では2000年に活動を開始し、2002年3月11日に法人化した。東日本大震災後の3月13日以降、被災地に食料などの支援物資を運搬しており、2012年5月23日現在、東京からの被災地への往復回数は147回を超える。